



2003年 6月～2004年 4月

- ◆ 第19回： 6/6 いよいよワークショップ再開 新メンバーを加え、新たにスタート！
- ◆ 第20回： 7/4 管理・運営の進め方に新たな動き！
- ◆ 第21回： 8/7 旭中学校を視察！中庭を中心にした明るく変化に富んだ学校！
- ◆ 第22回： 8/22 新体育館・プールに対する提案・意見多数！
- ◆ 第23回： 9/19 管理運営委員が決定！今後の活躍に期待！
- ◆ 第24回： 10/10 新体育館・プールの平面構成、方向性まとまる！
- ◆ 第25回： 10/31 監理・運営に関しての前向きな提案！
- ◆ 第26回： 11/28 体育館・プール計画もほぼ決まり、あとは管理運営を検討するのみ！
- ◆ 第27回： 1/13 石樽小での『夢』ってなあに？
- ◆ 第28回： 1/31 第1回新校舎建設現場見学会開催！
- ◆ 第29回： 3/2 各自治会への建設説明会始まる！
- ◆ 第30回： 3/30 体育館・プール設計まとまる！自治会説明の反応さまざま！
- ◆ 第31回： 4/20 H15年度最後のワークショップ！校舎完成まであと8ヶ月！

第19回ワークショップの概要

2003年 6月 6日 (金) 19:35~21:05
出席者数：26名 場所：石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

近頃全国各地で、こうしたワークショップが行われており、住民参加型の活動がどんどん活発になっている。

教育長あいさつ

今年は体育館とプールの計画を行います。新メンバーも加わり、昨年に引き続きよろしくお祈りしたい。

19:40 自己紹介

19:50 本日の内容説明

これまでのおさらい

- ・パイロット・モデル研究報告書に沿って

新校舎完成までのスケジュール

- ・今年度：
 - ・体育館・プール設計
 - ・管理・運営方法の検討
 - ・校舎工事スタート（秋）
- ・来年度：
 - ・管理・運営詳細検討
 - ・校舎完成（12月）
 - ・体育館・プール完成（3月）

今年のワークショップは「**体育館・プール設計**」と「**管理・運営方法の検討**」の2つが主題

20:30 今年度の進め方について

- ・昨年度は管理・運営に関する検討項目の抽出を行ったので、今年はそれらについて具体的に検討していく年。設計事務所でなく地域が主体となって話し合いを進めていったほうがよいのでは。
- ・ワークショップメンバーも増えたのでグループ分けをして話し合ったほうが良いと思う。
- ・「体育館・プール設計」と「管理・運営方法の検討」の同時進行は難しいのでまず体育館・プールを先行して進めたほうが良い。
- ・校舎完成までの1年半という期間は管理・運営について話し合うには短いくらいなので早急に進めるべき。



いよいよワークショップ再開 新メンバーを加え、新たにスタート！

昨年5月に「みんなでつくる、みんなのための、新しい石樽小学校」を合言葉にスタートしたワークショップですが、年度が変わり新しいメンバーも加わり、また新たなステップを踏み出しました。昨年は18回のワークショップと2回の公開ワークショップの計20回という精力的な活動により、石樽にしかない石樽らしい小学校の設計を完成させることが出来ました。また新石樽小についての説明と建設委員の活動経過も記録したパイロット・モデル研究報告書も同時にまとめました。今年の活動は校舎に引き続き体育館とプールの設計を行います。さらに校舎完成後すぐに地域の利用がスムーズに行えるように管理・運営についても話し合いを進めていきます。

一人でも多くの人の意見を反映し、地域に親しまれ、愛される小学校となることをめざし、今年もがんばります！



再開されたワークショップの様子
新メンバーが6人加わり、全体でも5人増となった新建設委員会。
今年も活発な意見交換が期待できそう。

次回ワークショップテーマ

1. 今後の管理・運営の進め方
2. 体育館・プールへの想いを語る
3. 体育館・プールの設計スケジュール

- ・1時間半の中で両方の話しをするのは難しい。まず体育館・プールを進めてはどうか。
- ・「管理・運営」という言葉がかたい。まるで「鍵の管理方法の決める」といった印象を受ける。今はまだそんな段階じゃない。

次回各自意見を持ち寄り、具体的な進め方について話し合う！

ワークショップの新メンバー構成

- 委員長 岡 昭行 (育友会歴代会長)
副委員長 梅山英明 (教育委員)
伊藤文男 (町議会議員)
山岡一男 (町議会議員)
- NEW** 石崎英夫 (自治会長)
NEW 小林勝利 (自治会長)
NEW 諸岡忠昭 (自治会長)
伊藤 隆 (前自治会長)
岡 主幸 (前自治会長)
林 邦明 (学窓会)
森 清光 (学窓会)
- 川内信秀 (育友会歴代会長)
石岡なが子 (育友会歴代会長)
西村幸弘 (育友会歴代会長)
瀬木好博 (PTA会長)
- NEW** 赤坂佳朗 (PTA副会長)
諸岡みゆき (PTA母親代表)
- NEW** 岡 美子 (PTA副母親代表)
NEW 寺本治夫 (PTA書記)
NEW 稲垣 恵 (PTA会計)
NEW 小西修市 (石樽小学校 校長)
神谷 宏 (石樽小学校 教頭)
日沖 貴 (教育委員会教育長)
川島 修 (教育委員会教育課長)
小林良典 (教育委員会教育課主幹)
- NEW** 伊藤和仁 (教育委員会教育課主幹)
植野 収 (石本建築事務所 名古屋支所長)
奥井康史 (石本建築事務所)
岡野俊二 (石本建築事務所)
小松 尚 (名古屋大学大学院助教授)
- 計 30名

第20回ワークショップの概要

2003年7月4日(金) 19:40~21:15
出席者数: 24名 場所: 石樽小 家庭科室

19:40 委員長あいさつ

町P連の講演会にて「スローライフ」について話しがあった。「スピード社会の中で何か大切なものを忘れていないのでは?」と思う。新しい石樽小学校でゆっくりりたい。

19:45 これからのワークショップの進め方について 委員長からの提案

体育館・プールの設計については、みんなからの要望を集め、石本建築事務所にて検討することとし、**管理・運営**については、事務局的な役割を設計とは切り離し、例えば学校とPTAが中心となって進めてはどうか?

- 地域が利用することなので、学校やPTAではなく、地域が中心になっていったほうがいい。
- ・ 地域が主導権を持つべき。学校とは切り離し、先生に負担をかけない。
- ・ 設計は石本建築事務所が中心に提案をまとめるように、管理・運営の事務的内容を担う委員会を作ればいい。
- ・ 管理・運営の話はまだ早いのではないかと先に体育館・プールの設計を進めればいい。
- 設計と分けて考えるものではない。要望が先にあって、本当に使える設計ができる。

各所属から代表者を選び、管理・運営の委員会を作る。構成人数・人選は委員長に一任する。

20:15 体育館・プール計画について 計画を進める上での前提条件

- ・ 計画場所: 新校舎北側
- ・ 校舎棟と2階連絡通路にて接続
- ・ 計画地盤高さ: 体育館…1階
プール…2階



管理・運営の進め方に新たな動き!

前回のワークショップにおいて焦点となった管理・運営の進め方について活発な意見交換が行われました。まず委員長から「管理・運営を中心となって進めていく事務局的な役割が必要であり、その役割を学校とPTAが担ってはどうか?」という提案が投げかけられましたが、その提案に対し、「地域利用のことは地域が中心に考えるべし。」というのが、各委員の共通の意見でした。こうしたやり取りからも建設委員会の各委員の管理・運営を自分自身のこととして捉える意識の高さが伺えました。そうした流れから、今後は建設委員会のメンバーから代表者を選出し、新たな委員会を発足して、その委員会がワークショップの中で中心となって管理・運営について進めることになりました。

また、体育館・プールの設計については今回のワークショップで全国の特徴ある体育館・プールをスライドを見ながら勉強しました。そこで次回は昨年同様他校の視察を行います。委員各人が自分の目で見て感じることで、より良い石樽小の体育館・プール計画に活かそうというものです。

次回ワークショップテーマ

1. 体育館・プールの他校視察

次々回ワークショップテーマ

1. 体育館・プールへの想いを語る

他校の事例紹介

- ・ 屋根の構造が木造である(木造小屋組) 体育館
 - ・ 1階にも床までの大きな窓を設け、外部空間との連続性を意識した体育館
 - ・ ステージが可動式で必要な時のみ設置する体育館
 - ・ 屋根付のプール
 - ・ 丸い体育館
- など、全国各地の8つの体育館・プールを紹介。

(右) つくば東小学校

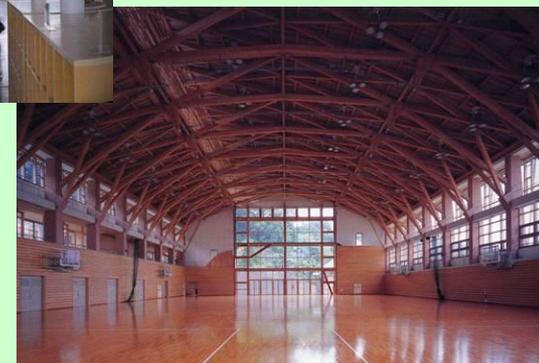
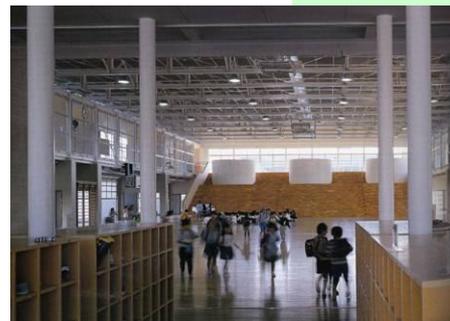
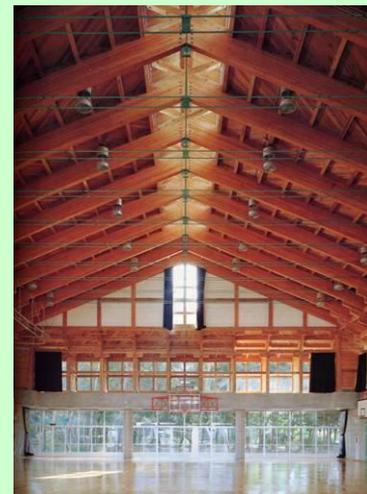
木造の小屋組みが美しく、外部との連続感がある大きな開口部を持つ。

(左) 白石小学校

昇降口と連続する空間構成。ステージは昇降式。

(下) 緒方中学校

木で組まれた丸みのある小屋組が心を和ませる。



第21回ワークショップの概要

2003年8月7日(木) 9:00~

出席者数: 22名 他校視察: 愛知県旭中学校

9:00 大安町文化会館集合

9:15 バス出発

あいさつ 梅山 副委員長
植野 石本建築事務所長

11:00~12:00 昼食(長久手町にて)

12:45 旭町立旭中学校着

13:00 校舎説明、校内視察、質疑応答
(旭町教育委員会と旭中教頭より説明)

■旭中学校の特色

1. 自然・中庭・地形利用

自然環境を活かし、中心に野外劇場のある中庭を持った、地形を巧みに利用した学校

2. 地域の文化教育拠点施設

地域に開かれた施設としての具体的な展開のある学校

3. 教科教室型の導入・多目的スペース設置

教科教育型の教育環境をもち、自由で多様な学習を進められるスペースを持った学校

4. 発表の場の設置

自己教育力育む発表の場の多い学校

5. 曲面屋根の群造形、木造と木質空間

木造集成材アーチ梁と木製サッシによる新しい木造の学校

■地域に開放している施設

校庭、体育館、プール、中庭、コンピュータ教室

- ・図書室も開放を前提に計画されたが、実際には建物構成上、管理が難しく開放していない。
- ・コンピュータ教室も別の町の施設を使うようにしてもらっている。
- ・体育館利用の頻度が多く、2回/週程度。
- ・「町立小中学校の開放に関する規則」により運用している。
- ・運用は学校とは別のスポーツ委員などが行っている。



旭中学校を視察!

中庭を中心にした明るく変化に富んだ学校! 15:00 閉会

昨年は第3回ワークショップで他校の視察を行いました。今年も体育館・プール計画および地域開放運営の参考とするため、愛知県旭町立旭中学校に視察に行ってきました。昨年同様平日であるにも関わらずたくさんの参加者があり、当初から変わらぬ委員の熱意を感じました。

旭中は敷地の高低差を活かして計画され、また屋外ステージをもつ中庭を中心に校舎を配置するなど石博小新校舎計画との共通点も多く、非常に参考になる学校でした。

体育館は地域利用を想定し、とても広く、休憩コーナーを設けたりステージを剣道場と兼用するなど工夫を凝らした造りでした。またプールは屋内で開閉式のガラス屋根を採用するなど特徴の多い施設でした。



旭中学校の説明を受ける建設委員

次回ワークショップテーマ

1. 視察を振り返っての意見交換
2. 石博小体育館・プールの目標設定

■その他の良い点・悪い点

- ・明るく快適で子供たちにとって良い環境。
- ・窓からの景色が場所によって全く異なる。
- ・設備が複雑で教師達では管理できない。
- ・造成工事期間が不十分で舗装にひびが入っているところがある。
- ・木製建具を採用している。外部に面する部分は劣化しやすい。



体育館

広々とした体育館。奥は休憩コーナー。木造の小屋根組み。



プール

屋内プール。屋根は開閉式ガラス屋根。

剣道場

ステージと兼用。



中庭 施設の中心に位置し、屋外劇場となる。

第22回ワークショップの概要

2003年8月22日(金) 19:35~21:40

出席者数: 24名 場所: 石樽小 家庭科室

19:40 委員長あいさつ

今年は雨の多い夏となり、盆踊りも体育館で行われた。玄関がないため、入口廻りのぞりを踏み歩いて中へ入っていく状況。玄関の必要性を感じた。

教育委員会からの報告

石樽小学校(校舎)の施工者決定

戸田建設(13億6500万円)

19:40 本日の内容説明(以下スライドにより説明)

前回のおさらい(視察写真で振り返る)
「第21回わーくしょっぷだより」参照

20:00 旭中学校を視察した感想

- ・出会った生徒みんなが挨拶してくれて気持ちよかった。
- ・傾斜地をうまく利用した建物だった。
- ・数多くワークショップを重ねただけあり、よく気配りされた計画で感心した。
- ・ワークショップのメンバーが現在では関わっていないと聞いて残念に思った。
- ・地域利用が充分行われていなくて残念だった。

新石樽小にふさわしい体育館・プールに対する提案・意見

◇体育館に対して

- ・更衣室、シャワー、放送室、資料室が必要。
- ・器具庫は3種類必要(学校・地域・維持管理)
- ・地域との交流がはかれる(竹細工など)広いステージがほしい。
- ・昇降式のステージがほしい。
- ・ステージ下にはひな壇といすを収納。
※ひな壇は入学式等の写真撮影に利用
- ・コートのおすぐ横に、競技している友達の応援ができるベンチがほしい。
→すぐ横にベンチがあるのは危ない。
→少し下がっていてネットで仕切ればいい。
→ネットは実際にはあまり利用されない。
- ・暖房設備が必要。(現在はストーブで対応)
- ・明るく、風通し良くしたい。



新体育館・プールに対する提案・意見多数!

旭中学校の視察や全国の他校事例紹介をふまえ、新石樽小の体育館・プールに対する提案や意見が多数集まりました。様々な提案・意見がある中、やはり実際に自分の目で確認して得られる情報や影響は大きいのか、視察した旭中学校の特徴的な部分に関わる意見が多いように思われました。

そのひとつがステージに関する意見で、旭中では剣道場と兼用した広いステージでしたが、石樽小でも「地域との交流スペースに」とか「広いステージを」、あるいは「不要なのでは」とか「昇降式に」「収納式に」といった意見が聞かれました。もうひとつ多かった意見は「屋根付き」のプールが良いという意見です。その理由は「雨天時利用」「酸性雨対策」など様々ですが、一般の学校プールとしては特殊だけに、視察での各委員の興味をひいたようです。反対に、「屋根がないほうが良い」という意見もあり、今後よく話し合っ決めていくこととなります。



旭中学校プール
視察で各委員の興味をひいた屋根付きの
屋内プール

次回ワークショップテーマ

1. 新体育館・プールに対する提案の整理
2. 平面計画

- ・ステージはいらなと思うくらいだが、必要であれば、威厳のない、子どもたちがかわいく見えるステージとしたい。
- ・「木」を「木」らしく使いたい。
- ・災害に強い建物
- ・地域利用のイメージできない。
- ・町の体育館あるので子供利用中心で計画すべき
- ・玄関のスペースがほしい。(現在ない)
- ・窮屈にならないよう、外部が見えるほうが良い。
- ・広すぎると声が届かない。
- ・管理者用のスペースが必要。

◇プールに対して

- ・目・手洗い高さ、プール深さ等、学年毎の体に合った配慮が必要。
- ・顔を水につける指導スペースがほしい。
- ・防災拠点機能として、プールの水を飲み水にする過設備が必要。
- ・雨でもプールが使えるよう屋根を設けたい。
- ・酸性雨をよけるために屋根を設けたい。
- ・屋根なんかないほうが良い。
- ・PTAのプール当番時の日除け用屋根がほしい。
- ・不審者侵入を防ぐため、壁を高くする。
- ・床は滑りにくい材料を使う。
- ・一年中楽しめる温泉プールとしたい。
- ・地域利用を想定した夜間照明必要。

→ プールに関しては、健康管理面(伝染病等)・安全面(監視員の配置等)などクリアすべき問題が多く、地域開放は考えない。

◇その他

- ・豪雨時にも浸水しない排水計画とする。
- ・太陽光発電などによる維持管理費の低減。
- ・せっかく良いものをつくっても維持できなければダメなので、維持管理性を考慮。
- ・材料の選定にあたっては、経年変化を考慮。
- ・旭中にあった「日時計」や「滝」のように遊び心のある何かをほしい。(プール循環水利用等)
- ・体育館・プールの計画に関わるので、管理・運営の話を平行して進めるべき。

21:35 管理・運営について

10名程度で中心メンバーを構成する。体育館・プール計画とも連携をとって平行して進める。

21:40 閉会

第23回ワークショップの概要

2003年 9月 19日 (金) 19:35~21:05
 出席者数：22名 場所：石樽小 家庭科室

- 19:35 委員長あいさつ
 管理運営委員の発表
 伊藤 隆 前自治会長
 森 清光 学窓会
 小西修市 校長
 瀬木好博 PTA会長
 岡 昭行 建設委員長
 梅山英明 建設副委員長
 小林良典 教育委員会
 計7名

19:40 本日の内容説明 (以下スライドにより説明)
 前回のおさらい
 「第22回わーくしょっぷだより」参照

19:45 新体育館・プール設計のキーワード設定
 前回のワークショップでの意見をまとめ、分析した結果から、以下のキーワードを設定。

- 1. 機能的な環境**
用途に応じた利用しやすい施設環境づくり
- 2. 快適な環境**
のびのびと快適に利用できる施設環境づくり
- 3. 安全な環境**
安心して利用できる施設環境づくり
- 4. 永く愛される施設**
いつまでも利用できる施設環境づくり

19:50 新体育館・プールの平面計画案説明

- A案:** ステージをしっかりとつらえ、ひな壇となる休憩コーナーを設けた案
B案: テラスに面した広い休憩コーナーをステージと兼用し、アリーナを広くとった案
- 共通事項：
 ・開放しないプール関係諸室は全て2階に配置。
 ・管理室を設ける。
 ・アリーナ南側は大きな開口とし、校舎との間をテラスとして利用できる。
 ・地域利用者も利用できる更衣・シャワー室を設ける。



管理運営委員が決定！今後の活躍に期待！

今年度のワークショップでは「体育館・プール設計」と「管理・運営方法の検討」の2つの主題がありますが、その「管理・運営」について中心となって話を進める管理運営委員がついに決定いたしました。選ばれた委員の皆様は、ワークショップと両方の参加となり、忙しい中大変ですが、がんばってほしいと思います。今後ワークショップでの議題は、「体育館・プール設計」から徐々に「管理・運営」へと移っていくことになります。先行して進められている「体育館・プール設計」は、建設委員を中心とした地域の意見をもとに平面計画図の案が示され、要望が形となって見え始めました。

新体育館・プールに対する提案・意見の分析

目標・キーワードの設定	用途に応じた利用しやすい施設環境づくり
1. 機能的な環境	・必要な諸室 ・ステージ ・適正な大きさ ・プールの屋根 ・必要な機能、設備 ・スペースの有効利用
2. 快適な環境	のびのびと快適に利用できる施設環境づくり ・明るく、涼しい、温かい ・空間のゆとり ・子どもをかわいくみせる ・天然素材利用 ・外部との関係 ・遊び心のある仕掛け
3. 安全な環境	安心して利用できる施設環境づくり ・防犯対策 ・防災対策 ・避難しやすい ・環境汚染対策 ・事故対策 ・防災拠点機能
4. 永く愛される施設	いつまでも利用できる施設環境づくり ・耐久性のある構造体、仕上げ材 ・維持管理しやすい(作業性・コスト) ・建物の基本性能の確保(豪雨時の浸水、雨漏り)

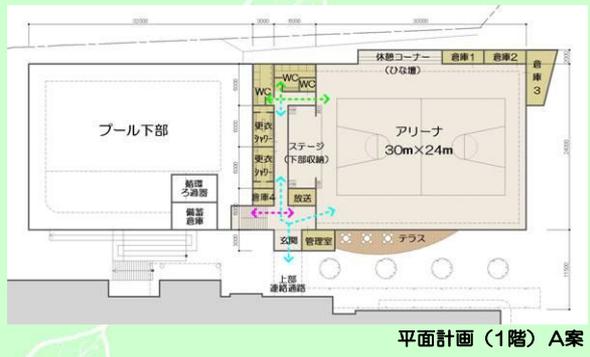
次回ワークショップテーマ

1. 新体育館・プール平面計画
2. 建物イメージ

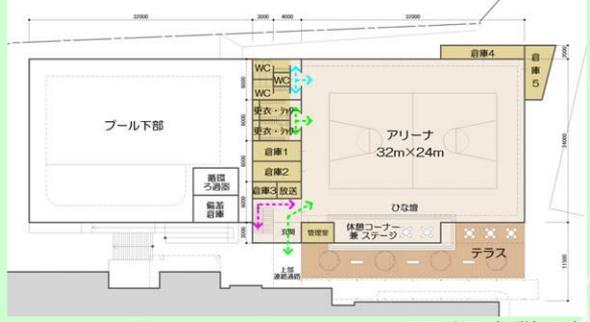
- 説明案に対する意見・要望
- ・農具倉庫が必要。
→体育館として必要でないので別棟で設ける。
 - ・アリーナサイズは、バレーコート2面が確保できるサイズ以上とする。
 - ・体育の授業の時は更衣室を使わないので、地域用として相応しいサイズとする。
 - ・運動だけでなく、学習発表会など文化的利用も多いので、吸音に配慮した計画とする。
 - ・文化的利用も考慮し、ステージは必要である。
 - ・ステージ横のWC配置はステージ使用時に、横を通ることになるので良くない。

以上の意見・要望に対し再検討し、平面計画を見直す。

- 21:00 「旭町立小中学校の開放に関する規則」の配布・説明
 21:05 閉会



平面計画 (1階) A案



平面計画 (1階) B案

第24回ワークショップの概要

2003年10月10日(金) 19:35~21:05

出席者数: 24名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

先日、石樽小運動会が行われた。自分の子どもが石小に通っていない年配の方も見に来られ、戦時中を表現した子どもたちの演技に涙を流して感動されていたのが印象的だった。

19:40 名古屋大学小松先生より、最近完成した2つの小学校の紹介

- 北海道積丹町立余別小学校(平成13年度コミュニティの拠点としての学校施設整備に関する「10ット・E」研究対象校)
 - ・全校児童16人
 - ・複式学習(2以上の学年で学級を構成)
 - ・『まちのみち』とよばれる学校と地域施設をつなぐ通路を設け、そこを地元(町、身近な人等)の歴史を紹介するギャラリーとしている。
 - ・エコミュージアム

■熊本県小国町立北里小学校体育館

- ・地域施設に隣接
- ・工夫を凝らした上部からの採光
- ・体育館らしくない体育館
- ・簡易ステージ

20:10 本日の内容説明(以下スライドにより説明)
前回のおさらい
「第23回わーくしょっぴだより」参照

20:15 体育館・プール平面計画(模型により説明)
・前回案のA案を基本に改善(WCの位置等)

□新しい案に対する意見・質問

- ・会議室が必要(10人程度の会議に対応)
- ・冬の寒さ対策は?
→この地域に相応しい断熱を行う。
→太陽熱を活かしては?
- ・体育館の主目的を明確にした方がよい。多目的に対応すると設備など過剰になる。
- ・風水に対しての検討はされているか?
→風水の基本理念と同様、各室の機能に相応しい配置(風通しの良い場所等)を行う。
- ・備蓄倉庫は学校用及び地域の災害対策として設けることを考える。



新体育館・プールの平面構成、方向性まとまる!

今回は名古屋大学の小松先生も参加して頂き、先生自身が視察された2つの新しい小学校の取組みについて聞かせて頂きました。両校とも地域とのコミュニケーションをテーマにしており、新しい石樽小学校にとって、とても参考になる内容でした。

また、体育館・プール計画は前回のワークショップでの委員の皆さんからの意見を受け、新しい平面計画案が出来ました。



余別小学校体育館
『まちのみち』のようす
様々な展示がされている



北里小学校体育館(内観)
丸い天窓が特徴的
内壁は木製格子で覆われている

北里小学校体育館(外観)
変わった形をしている

次回ワークショップテーマ

1. 平面計画のまとめ
2. 外観計画
3. 管理・運営に関する意見交換

20:55 管理・運営委員会経過報告及び予定

- ・9/24 第1回委員会:
これまでワークショップで意見交換されたことの確認。
- ・10/21 第2回委員会(予定):
今後更に進めるための意見交換。
- ・次回のワークショップで建設委員と意見交換

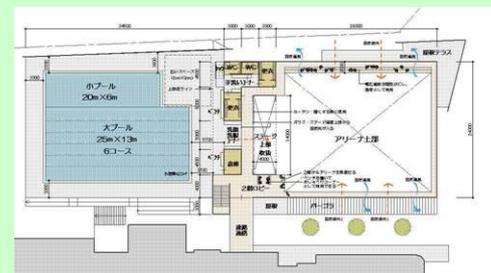
21:00 校舎工事進捗状況説明

- ・工事範囲に仮囲いをおこなった。
- ・10月はガソリンスタンドの撤去、仮設体育倉庫の設置、遊具の移設等を行う。

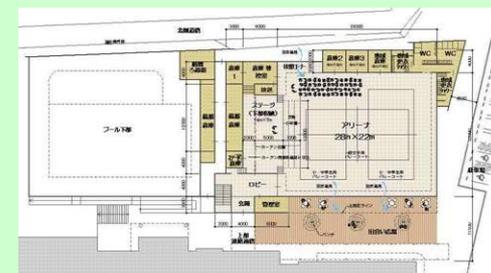
21:05 閉会



模型写真
屋根を外した状態



2階平面図



1階平面図

第25回ワークショップの概要

2003年10月31日(金) 19:35~21:30

出席者数: 24名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

先日、文化祭の作品づくりについて、話し合いが行われた。様々な年代層が集まり、とんぼや鉄砲など色々な竹細工の話が出て、最後に大風が決まった。このような世代を超えた地域の取り組みを大事にして、夢のある学校を目指していきたい。

19:40 本日の内容説明(以下スライドにより説明)

前回のおさらい

「第24回わーくしょっぴだより」参照

19:50 体育館・プール平面計画(模型により説明)

・前回案をもとに改善案を説明。

変更点: ステージをアリーナ北側に変更

: トイレ・更衣室を玄関近くに変更

改善点: 玄関とステージの位置関係が向上

: アリーナを通らずに玄関と更衣室の移動が可能

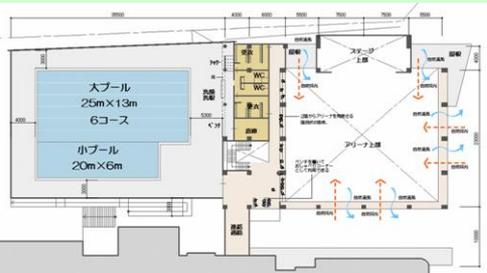
: プール用の更衣室・WCが広がる

→改善案で設計を進めることで決定

□改善案に対する意見・質問

・ピアノを収納する部屋が必要。

→プール下のスペースを活用できないか?



改善案
2階平面図



改善案
1階平面図



監理・運営に関しての 前向きな提案!

今回は管理運営委員会からの経過報告が行われました。さまざまな意見がありましたが、新石樽小学校を中心に、地域の人々の交流を深め、子どもたちもその中でのびのび育っていく環境をつくっていかうという思いが感じられました。お金のやり取りはどのようにするのかといった悩みはありますが、次回ワークショップまでにみなで今回の提案に対する意見をまとめてくることになりました。小松先生からは「こうすればいいという決まった方法はないため、色々なきっかけ作り・場所作りを考え、うまくいったものを発展させていけばよい」と助言をいただきました。今後もこのような話し合いが続けられていくことで、地域の夢を実現する新石樽小学校となることを期待します。



さまざまに話し合いがなされる
ワークショップの様子

次回ワークショップテーマ

1. 外観計画
2. 管理・運営に関する意見交換

- ・更衣室に行く廊下が狭い。
- ・地域倉庫の出入れが不便。
→入口の場所を再検討。
- ・搬入はどこから?
→東側駐車場に面した開口部から行う。

体育館屋根について

・アーチ型とフラット型の2案を説明

□屋根に対する意見・質問

・風・積雪に対してどちらが良い案か?

→どちらでも大丈夫なように設計を行う。

・体育館は雨の日によく利用する。音に対するの対策は?

→吸音等を考慮し設計をすすめる。

→アーチ型のほうが音が響く気がする。

→音も場合によりにぎやかな感じがして良い。

20:50 管理運営事務局経過報告

・第1回(9/24)第2回(10/21)の事務局会のまとめを報告(資料配布)

□経過報告に対する質問・意見

・人材バンクのように、ここにすれば人が見つかるようなしくみをつくりたい。みんなの生きがいになればよい。

・お金のやり取りについて

→地域づくりが成功しているところはお金のやり取りも行っている

→お手伝い券等の考え方もある。

→教育的にもお金のやりとりを子どもたちに教えることができる。

・施設見学にも対応してほしい。

21:30 閉会



模型写真
アーチ型屋根



模型写真
フラット型屋根

第26回ワークショップの概要

2003年 11月 28日 (金) 19:40~21:30

出席者数：14名 場所：石樽小 家庭科室

19:40 委員長あいさつ

先日文化会館で行われた子ども音楽会を、新しい石樽小での催しと重ねながら聞いた。「演奏を聞きたい人」「聞いてもらいたい人」など、様々な人がいるが、そうした様々な気持ちに応えられる小学校にしたい。

19:50 本日の内容説明 (スライドにより説明)

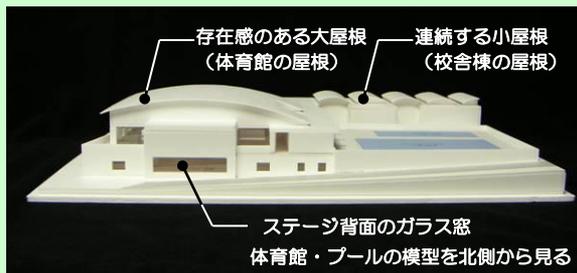
前회のおさらい

「第25回わーくしょっぷだより」参照

19:55 体育館・プール外観計画 (模型により説明)

屋根は、東西方向に大きな円弧を描く形状

- 理由1: もっとも天井高さを必要とするバレーコート
の向きに合わせることで、無駄のない空間形状が得られる。
- 理由2: 校舎棟の茶畑形の屋根形状に合わせ、全体として統一したデザインとする。
- 理由3: 校舎棟の屋根は、敷地南側の住宅規模に合わせた連続する小屋根としたのに対し、体育館の屋根は、北側に広がる水田の規模に合わせた存在感のある大屋根とする。



□ 計画案に対する意見・質問

- 体育館の高さはどれくらい?
→ 12.5mで現在の校舎くらいの高さです。
- ステージ背面のガラス窓は、開きますか?
→ 部分的に開くようにし、換気ができるようにします。
- 会議室からアリーナが見えるように、窓を設けたい。
- 南側に大きなガラス面があるが、清掃性に配慮し、暗転できるようにしてほしい。
- 夏の夜に窓を開けた時の虫対策をしてほしい。
- 軒下のハト対策も必要。



体育館・プール計画もほぼ決まり、あとは管理運営を検討するのみ!

今回で新体育館の屋根形状も決まり、これで体育館・プール計画に関しては、大きな方向性が確定し、あとは詳細設計を進めるだけとなりました。また、管理運営に関しても、新しい石樽小がどうあるべきかについて、具体的な話し合いが始まっています。校舎完成までに残された期間はあと約1年となりましたが、それまでに決めないといけないことは、まだまだたくさんあります。今までとは全く違う、地域のみんでつくる、地域のみんなの小学校です。今しっかり考えておかないと、せっかく今まで検討してきたことも十分に活かされず、ただ新しいだけの小学校になってしまいます。着々と工事が進む新しい学校に夢を膨らませながら、今後も引き続き石樽にしかない、子どもたちと地域の夢を乗せた新しい石樽学校をスムーズにスタートさせるため、力を合わせてがんばりましょう。

次回ワークショップテーマ

1. 管理・運営に関する意見交換



20:50 管理運営について

新しい石樽小はどうあるべきか?

この学校という場所をつかって、地域のみんで子どもづくりの一端を担えば、学校は基礎学力の向上に力をそそげる。

- 子どもたちは地域で守るのがいい (変質者対策) フェンス代わりになるのが地域の人である。

それをどのように実現するか?
どのように人を呼ぶのか?

「自分にそこで何ができるのか？」
に
応えるものを用意する必要がある。

夢を創る=『いしぐれ村』
夢をつくり学校に持ち込む
事務局：地域に働きかける
学 校：PTAに働きかける

- 「どう使う? どう人を集める?」よりも、自分はここで何をしたいのかを考えるべき。少なくともここにいるメンバーが魅力を感じる場とする必要がある。
- 大手を振って学校に来て、子どもや孫と同じ空間を共有できるといい。
- 地域活動の拠点となるといい。
- 年配の方々は時間に余裕があるので、それをうまく活かせるといい。年配の人にとっては、それが生きがいとなる。

21:30 閉会



第27回ワークショップの概要

2004年 1月 13日 (火) 19:40~21:20

出席者数：20名 場所：石樽小 家庭科室

19:40 本日の内容説明 (スライドにより説明)

前回のおさらい

「第26回わーくしょっぷだより」参照

19:45 校舎工事現場の現況紹介

■スケジュール

10...1...4...7...10...12

構造体: -----
 外装: -----
 内装: -----
 構 造: ----
 検 査: ---

■現在の様子 (写真により紹介)

1階の地中の構造体 (基礎・地中梁) を造っている。



石樽小での「夢」ってなあに？

今回からは、管理・運営に関する話し合いが中心となりましたが、最初に少し、工事が進む校舎の建設現場の写真が紹介されました。現在の小学校の東、以前は田んぼや茶畑だった敷地は、地域の皆様の協力により、石樽の夢を乗せた新しい校舎の敷地へと変化しています。まだ地上にはほとんど姿を現してはならず、現在は建物を支える構造の要とも言える基礎部分の工事を行っています。でもこれから見る見るうちに建物が出来上がっていくことでしょう。

さて、管理・運営ですが、こちらも着々と進んでおります。前回に引き続き、「新しい石樽小をどんな場所にするのがいいのか」さらに「石樽みんなの夢をもち、夢をつないでいこう」と掲げ、提案や意見を言い合いました。同時に、そうした考えや学校施設の内容を地域の皆さんにもよく理解していただくこと「新校舎建設だより」や「学校施設案内」なども制作に取り掛かっています。これからもっともっと夢を大きくし、その夢に向かって学校と地域が団結して、日本一の小学校を築いていきたいと思っております。

次回ワークショップテーマ

1. 校舎現場見学会 (現場にて)
2. 管理・運営に関する意見交換 (小学校にて)



20:00 管理・運営について

- 「石樽小学校新校舎建設だより」発行について
 - ・学区全域に配布する。
 - ・地域全体が新しい学校を理解し、学校に関わっていく糸口になればよい。

<意見>

建設だよりを手にした地域の皆さんが、より理解を深めるには、図面よりもイメージスケッチを多く使った紙面構成としたほうがよいと思う。

- 「学校施設案内」(小冊子)について

- ・自治会長が各地域で説明する時などにも利用できる小冊子。
- ・新しい学校のどこでどんなことができるのかを詳しく記述。
- ・地域の皆さんと共に、どんな学校に、どのようにしていくのがよいか、など夢を語る。

<意見>

- ・この地域は南北に断層があるので、「石樽をよく知ろう」という取り組みの中で、地質調査を行うのもよいのでは。
- ・「昔をなつかしもう」の取り組みの中で、竹とんぼ、竹鉄砲と同時に竹やり作りを行ってはどうか。
- ・我々の目指していることを実践している学校事例として「秋津小学校」というのがある。
 - よく調べてみたい。
 - 視察に行ってみたい。
- ・「新しい学校の夢」を最初からいろいろやるのは難しいから、まずは今実践していることから始めるのがよいと思う。
- ・場所(施設)を用意しただけでは、自然発生的に夢はふくらまない。誰かが音頭をとって進める必要がある。

21:00 次回のワークショップについて

- ・校舎の工事現場見学を行う。
 - 実際の大きさ・広さを体で感じ、新しい校舎をイメージしてもらう。その後、通常のワークショップを行う。

21:20 閉会

第28回ワークショップの概要

2004年 1月 31日 (土) 15:00~17:15

出席者数：24名

場所：新校舎建設現場～家庭科室

15:00 新校舎建設現場見学会

- ・ 本日の内容説明
- ・ 戸田建設さんの紹介
- ・ 工事スケジュール説明
- ・ 工事状況説明
- ・ 建材見本の紹介



外壁タイルの見本張

外壁タイル：優しい風合いをもち、ガラス廃材を利用したタイル

：タイルの選定にあたり、3色の見本張りを検討している。

- ・ 見学ルートの説明・見学時の注意事項説明



ヘルメットをかぶり現場を見学する建設委員たち



第1回新校舎建設現場見学会開催！

これまで、校舎および体育館・プールの計画にあたり、岐阜県や愛知県の学校見学を行ってきましたが、ついに今回、われらが新石榑小学校の見学会が行われました。もちろん、まだ工事の途中なのですが、今まで話し合ってきた新校舎が、どのように出来上がっていくのかを間近で見ようと、24名の建設委員が集まりました。

現在の工事状況は、まだ地中の「基礎」部分しかできておらず、地上部分には、柱の鉄筋が立ち上がっている程度でした。「ここが図書室です。」「これが教室ひとつ分の広さです。」など、設計者や施工者の説明により、その位置や大きさをみんなで確認いたしました。各委員が個々に様々な質問を行う様子からは、その興味の高さをうかがうこともできました。

第1回という名の通り、これからも現場見学会を行います。今後は建設委員に留まらず、地域の方々にもぜひ見学会に参加していただき、新しい石榑の交流の場となる新校舎の建ち上がってゆく姿を地域みんなで見守っていきたいと思います。

次回ワークショップテーマ

1. 管理・運営に関する意見交換



見学会当日の建設現場の様子（家庭科室より撮影）

15:50 家庭科室へ移動・準備

16:20 いなべ市 新教育長のあいさつ

16:25 本日の内容説明（スライドにより説明）
前回のおさらい
「第27回わーくしょっぷだより」参照
新体育館・プールの完成予想図紹介



体育館 外観



体育館 内観

16:40 管理・運営について

「学校・PTA」グループと「地域」グループにわかれ、今後の活動方法についてグループワークをおこなう。

17:15 閉会

第29回ワークショップの概要

2004年 3月 2日 (火) 19:30~21:20
出席者数：17名 場所：石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

もう2週間で卒業式。卒業したら小学校と縁なくなるといのが今までだったが、今後はこういことがなくなる。
また、子供にとって、学校の帰りに地域の人「おかえり」と言ってくれるのはうれしいもの。そんな地域の関係を保っていきたい。

19:40 本日の内容説明 (スライドにより説明)

前回のあらい
「第28回わーくしょっぷだより」参照

19:45 校舎工事現場の現況紹介



2階の床の鉄筋を組んでいる様子



中庭の様子です。東に向かって見えています。



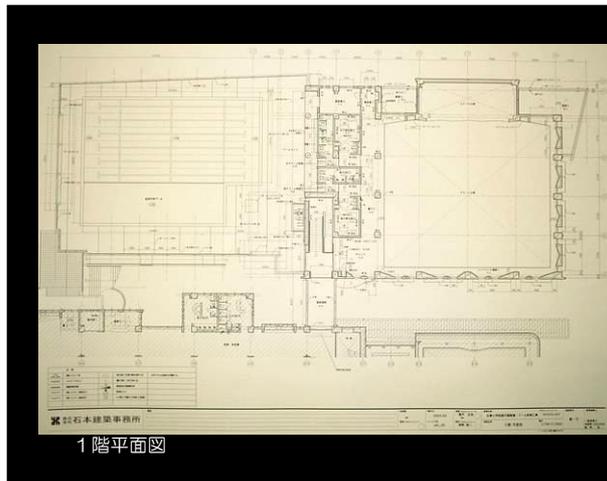
各自治会への建設説明会始まる！

今年度も残り1カ月となりました。来年1月の竣工時には、地域に開かれた新しい学校としてスタートできるように、自治会説明会が始まりました。今までの学校と何が違うのか、何ができるのか、といった説明と、どんなことをしたいのか、どんなことができるか、などの要望を聞くために建設委員会のメンバーが、各自治会を説明に回ります。2/28の鍋坂から始まり、3月中に全ての自治会を回る予定です。

また、校舎の工事現場も順調に立ち上がってきました。1ヶ月経てば大きく様変わりしていきます。出来上がった校舎は、その後ずっと見ることができそうですが、工事中の様子は今しか見れません。地域みんなで利用する新しい石樽小学校ができていく過程をみんなでじっくり見ていきましょう。

次回ワークショップテーマ

1. 1年間の総括



1階平面図

20:00 体育館・プールの設計説明

■実際の設計図面 (A1サイズ) の一部を紹介

■設計内容説明 (平面図、立面図、断面図)

- ・玄関ホールに真っ直ぐに入れるように、玄関とボランティア室の位置を入れかえた。
- ・地域利用倉庫をアリーナに面して設置。
- ・アリーナに面してベンチを設置。角を鈍角とし、安全に配慮した形状。ほか

20:20 管理運営報告 (2/8・2/26事務局会開催)

- ・事務局会の報告 (第6・7回報告書配布)
- ・自治会ごとに建設説明会を開催し、3月中に全自治会で説明する予定。

第1回 鍋坂 (2/28) の報告

説明者：岡委員長、梅山副委員長、林委員、伊藤隆委員

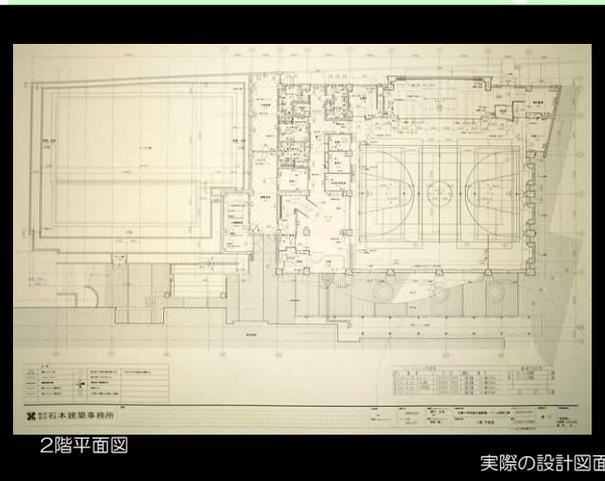
出席：男性20人、女性4人

質問等：・外観の色は？

- ・セキュリティを考慮したフェンスはないの？
- ・どんな部屋があるの？
- ・冷暖房設備はあるの？
- ・シルバー人材の事務所を置けば、人が集まるのでは。
- ・設備はいいが、ちょっと遠い。
- ・子どもが帰らなくなったら困る。などなど

21:00 建設概要説明用のスライド紹介

21:20 閉会



2階平面図

実際の設計図面

第30回ワークショップの概要

2004年 3月 30日 (火) 19:35~21:30
出席者数：19名 場所：石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

娘が卒業しました。でもこれからは「卒業したから小学校とはもうお別れ」ではなくります。

19:40 本日の内容説明 (スライドにより説明)

前回のおさらい
「第29回わーくしょっぷだより」参照

19:45 自治会説明会の報告

これまでに、3つの自治会を除き説明会を行った。残りの自治会も引き続き行う。

■自治会説明会での主な意見

- ・何か企画をしないと人が集まらないのでは？
- ・出店・フリーマーケット等を催しては？
- ・学校に子どもが入り浸りになって、帰ってこなくなるのが心配。
- ・お茶が飲めるのは良い。
- ・ボランティアの人達で運用できればいい。
- ・何か事故等があった時に、あらぬ責任を負わされたりすることを思えば、利用できない。
- ・不審者がいてもわからないのでは？



体育館・プール設計まとまる！ 自治会説明の反応さまざま！

ついに年度末を迎え、新体育館・プールの設計もまとまり、最終イメージ図も発表されました。

また、2月末から始まった自治会回りも大半を終えました。地域からの反応は、楽しみにしているという内容から現在進行中の工事からむ、厳しい声など様々で、さらに協議すべき課題等も明らかになりました。

ワークショップは来年度も続けていきます。今後は議題を「管理・運営」に絞って話し合いを進めていく予定です。

次回ワークショップテーマ

1. 1年を振り返って
2. 他校の取組み紹介
3. 今後の予定

■その他の意見とそれに対する考え方
□セキュリティについて

- ・監視カメラの設置を予定している。
- ・夜間の管理区画は、どう設定されているか？
→たたみコーナーを含む南側のエリア及び2階へは行けないように管理上の区画ができるよう設定されている。
- 夜間にたたみコーナーを使えないのは残念

□校舎工事に関する苦情等について

- ・校舎工事の苦情がいくつか聞かれたが、苦情処理のルートは確立されているのか？
→現在は施工会社が個別に対応している。今後は自治会長を通して、地域に伝達していく予定。

・北側道路の拡幅の予定はあるのか？

- 地域の方々が協力していただけるのであれば行いたいと考えている。

□説明会に参加した委員の感想

- ・建設委員の考えと地域とに温度差がある。
- ・今後の石樽の良き文化を築くためにも、地域からの声を前向きに捉え、対応したい。

21:20 体育館・プールの報告

- ・設計図は完成。最終イメージ図の紹介。

21:30 閉会

新体育館 最終イメージ図 完成



外観イメージ図



内観イメージ図

第31回ワークショップの概要

2004年4月20日(火) 19:35~21:50
出席者数: 17名 場所: 石樽小 家庭科室

19:35 委員長あいさつ

茶摘のシーズンだが、最近では手で摘む風景が見えなくなった。時代の流れを感じる。また、娘が中学校に入学し、学校から防犯ベルをもらって帰ってきたが、これも時代の流れなのだろう。しかし、その防犯ベルも、地域の目や耳があってこそ役に立つものである。

19:40 本日の内容説明(スライドにより説明)

前回のやさしい
「第30回わーくしょっぴだより」参照

19:45 管理・運営委員会からの報告

■自治会説明会について
・新田を終えた。北山と宇賀が未済。

■委員会の報告

・森さんを中心に、地域の中で人材探しを進め、新たな組織をつくることにした。
・第2号広報の記事予定項目を説明。(素案を配布)

19:55 学校を中心としたコミュニティづくりの事例紹介

事例校: 習志野市立秋津小学校(インターネットにより紹介:
<http://www.kosonippon.org/prj/edu/jirei/akitsu/>)

モットー: 「できる人が、できる時に、無理なく、楽しく！」
「楽しく、ゆっくり、「わたし」流に！」

- 地域との連携が「授業」になった!(右写真参照)
学校おはなし会、秋津っ子まつり、校内音楽会、高齢者との交流、ピオトーづくりと井戸掘り など
- 小学校にコミュニティルーム開設!
- 学校と地域が連携・融合していく上での成功の秘訣
無理は禁物、閉鎖的にしない、子どもが前面に など
- 秋津小学校コミュニティルーム運営委員会管理基準

20:25 「開かれた学校と子どもの安全確保」 に関して

秋津コミュニティ会長が著した本の記述を紹介
(コピーを配布)

- ・物理的に学校を閉鎖することにより、かえって失うものは大きい。
- ・学校を取り巻く人々の繋がりが、目に見えぬ防壁を作る。
- ・人が出入りしているからこそ安全 など



H15年度最後のワークショップ! 校舎完成まであと8ヶ月!

ワークショップが始まり、はや2年が経ちました。まだまだ先の話と思っていた新校舎もあと8ヶ月で完成です。

今回のワークショップで今期の建設委員は、ひとまず役目を終えた訳ですが、昨年同様、一部の委員の入れ替えのみで、ほとんどが引き続き完成までがんばっていただく予定です。この2年間のうち、初年度に「校舎設計」、次年度に「体育館・プール設計」を終え、残すは、「管理・運営」のみです。すでにいろいろ話し合いは進めてきましたが、検討課題まだまだたくさんあります。それらを解決するには、建設委員の方々の努力はもちろんですが、地域みんなの協力が不可欠です。「みんなで作る、みんなのための、新しい石樽小学校」の実現のために来年度も力を合わせてがんばりましょう。

秋津コミュニティ
の紹介写真



上) クラブ活動の様子。
おじいちゃんとお楽しむ
将棋クラブ。



左) 秋津っ子まつりでの
様子。おばあちゃん
との縄わない。

20:45 H15年度最後のワークショップに
あたり最後に一言

- ・最近はやその子を叱れなくなった。後で親が苦情をいいにくる。
→昔に比べ、地域の繋がりがなくなったから。
- ・事例紹介にあった秋津小も良いが、石樽は石樽の考えでルールを作るべき。
- ・秋津もすぐに今のコミュニティができたわけではないので、石樽でも時間をかけて作ってほしい。
- ・セキュリティに関して多くの自治会で質問があった。それらにちゃんと答える必要あり。
- ・全市に防犯ベルを配ったのであれば、そうした対応をしていることをアピールすることも大事だと思う。
- ・実際に校舎が建ちあがってきたので楽しみになってきた。よその子を自分の子ども同様に叱れる環境をつくるのが大事。
- ・自治会説明会を行ってみて、建設委員会と地域の考えていることに大きなずれを感じた。
- ・学校も地域ももっと危機管理をすべき。いつまでも平和が続くわけではない。
- ・子どもと同居していない家庭は、子どもに声をかけづらだろう。新校舎のコミュニティ施設を利用し、交流をはかってほしい。
- ・地域の方々に、力を合わせてここまでやってきた事をアピールしている。また、自分がそれに参加できたことを誇りに思っている。
- ・自治会説明を行い、人に伝えることの難しさを実感。朝出会う子どもたちには「おはよう」「行ってらっしゃい」「ヘルメットかぶれよ」と、毎日根気強く声をかけている。そうした言葉を交わすきっかけが大事。
- ・ワークショップを始めてもう2年が経った。12月の完成を思うと焦りを感じている。若いお母さん方にどんどん使ってほしい。
- ・この地域の中で、自分よりも亡くなった父の方がいまだに有名。地域のつながりが希薄になっているのを感じる。

21:45 今後の予定

27日の管理運営委員会で決める。

21:50 閉会